

令和元年度 書道講演会

平安時代のかなの美

連盟副会長 村上史麗

▼日時 令和二年二月二十四日(月・振休)

▼会場 一宮スポーツ文化センター

▼講師 四辻秀紀 先生

支部集会終了後、引き続き支部講演会を開催しました。今回は徳川美術館で永年勤務され現在名古屋経済大学教授でいらつしやいます、四辻秀紀先生をお迎えして「平安時代のかなの美」と題して一時間半の講演をお願いしました。

九世紀末に遣唐使が廃止されると中国風文化(唐様)から日本風文化(和様)への移行が顕著になってきました。平安中期小野道風によって始められた和様書道は藤原佐理によって継承され藤原行成によって完成されました。この三人は能筆としてすぐれ特に三跡と呼ばれています。その後行成の子孫(世尊寺家)によって受け継がれ護ら

れてきました。

貴族子女の教育として習字と和歌は最も重要なもので、歌合や物語文芸(源氏物語等)の発展にともないかな書が美しさの頂点を極めることになりました。そこから高野切・関戸本古今集など多くの古筆が生れてくることになります。

先生の貴重な資料を拝見出来、会場の皆様もスクリーンに写し出されるかなの一線くの素晴しさを食い入るように見つめました。

講演中は休憩もされず、熱のこもったご講演で先生の平安かなの美しさに魅了されご研究されていらつしやるお姿に感動いたしました。私達も長い歴史の中で多くの先人達が築き上げた日本独特のかなを護り継承しているかなければと感じました。

聴講者 一一一名

(内、一般) 十四名

